

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

海岸のクロマツは、新しくできた砂浜や、火山の活動で海に流れこんだ溶岩台地など、ほかの樹木が生育していない土地にいち早く種子をまき散らして、そこに林をつくる性質があります。

陽樹であるクロマツは子どもときから太陽の光がたくさん必要なのです。人が海岸の砂地にクロマツを植えて、海岸林をつくることのできるのは、①このクロマツの性質を利用して、
林をつくっておとなになったクロマツは、松かさをつけて、

さかんに種子を飛ばします。②種子にはつばさがついていて、かなり遠くまで移動することができますから、新しい土地で新しい苗として生長することができます。

A、親のクロマツの足もとに落ちた種子は、発芽できなかったり、芽を出しても苗として生長ができません。地面に落葉がもっているような林では、種子が発芽して根を伸ばしても、それが土にとどくまでに枯れてしまうのです。B、運よく土に根をはることができても、太陽の光がとどかない林の中では、生長できずに枯れていくのです。

③ たいていの樹木は、自分の足もとに種子を落として発芽させ、苗として生まれた子どもを愛情をもって育てる、ということはありません。あちこちと移動できない樹木という生き物は、自分が立っている場所で、太陽の光をどうやってひとりじめするかが、生きるための絶対の条件なのです。足もとの子どもは、愛情で育てる相手ではなくて、やがて大きくなったら自分からけるはずの光をうばう敵なのです。ですから、クロマツ林内に子どもがないのは、不思議なことではありません。まるで相撲の横綱のように強いクロマツにも泣きどころがある

ります。日陰になったり、葉の数が少なくなると急に元気がなくなつて、ひどいときには枯れてしまうのです。

C、となりに暗いかげを落とすクスノキのような高木があつて、クロマツと伸びくらべをやり、クロマツが負けて日陰ものになった場合、彼に命の危険がせまるのです。このような競争では、クロマツはけつして強くはありません。

クロマツが海岸で自然の状態で林をつくって生長できるのは、ほかの樹木がやつてこれないから、とも考えられるのです。

広葉樹がとなりにやつてきて、落ち葉をやたらと落とされるのもこまります。落ち葉は厚くつもつてやがてくさりま

D、砂地の土の性質をすっかり変えてしまうのです。それは、広葉樹の生長につごうがよくて、クロマツにはおおいに不利なことです。砂地とちがつて土はふかふかになり、水分や空気がたつぷりです。クロマツに栄養をあたえるキノコたちはみんな死んでしま

こうなると、クロマツの勢いが弱るところへ、次から次へと広葉樹が侵入して、クロマツと背くらべを始めます。クロマツはこのとき自分の足もとに松かさから種子を落として、子どもをふやし、広葉樹と④戦争をやればよいのでしようが、残念なことに、⑤こうなつたらクロマツの子どもは育たないのです。

自然の世界では、クロマツ林の中に、広葉樹の種子が運ばれてきて発芽します。小鳥が種子を運びます。発芽した苗は、クロマツとちがつて暗いところでも、生長できる性質があります。このような樹木を陰樹とい

日本にあたかいと多いのですが、このような地域では、タブノキ、ヤブニッケイ、クロガネモチ、シイノキなどの常緑広葉樹がさかんにクロマツ林に生えるようになります。クスノキが生えることもあります。

クロマツの林が少し明るい場合は、ハゼノキ、ヤマザクラ、

ムクノキ、エノキなどの落葉広葉樹もよく生きてきます。これらの広葉樹はぐんぐんと生長して、樹高がクロマツとならぶようになります。クロマツは太陽の光をひとりじめできなくなり、クロマツと広葉樹とのあいだで、太陽光のうばいあいをめぐり生存競争が起こります。相手より高いところに枝葉を広げたほうが勝つのです。ざんねんながらクロマツに勝ち目はありません。陽樹であるクロマツはたくさん光がないと生きられないのに、広葉樹は日陰でも平気なのです。

クロマツはだんだんに弱って枯れていきます。こうして、クロマツ林は広葉樹林へと変わるので。この自然の変化を※植生の※遷移とよびます。

せっかく今あるクロマツの海岸林が、植生の遷移によって海岸林としては能力の低い広葉樹林に変わらぬ⑥くふうが必要で。植生の遷移という自然の力を止めればよいのです。

それは、あんがいかなたんなことでした。クロマツ林の中に出てくる広葉樹の苗を刈り取り、土の性質を変えてしまう落ち葉をかき集めて林のそとへ運び出すのです。この仕事を人びとは「松葉かき」とよびました。この仕事は松林の手入れのためというより、人びとの毎日の生活のためでした。「松葉かき」で集めた枯れ葉や枝、刈り取った広葉樹などは、家庭の炊事や風呂たきの燃料になりましたし、収穫したイモを保存するイモ倉にも使いました。

「※翁と※媪とクロマツ」を組み合わせた、長生きを祝うおめでたい人形があります。クロマツは長生きの樹木です。翁と媪には、クロマツの長寿にあやかっけて長生きができる願いがこめられています。翁の手には、※熊手がにぎられ、媪の手にはほうきがあつて、二人は松葉かきをしています。じつは、この人形は、人とクロマツがともに生きてきた姿を示しています。人が落葉かきをすることで、クロマツが生長するためにつごう

のよい環境が保たれてきたのです。

また、この人形はクロマツのように人も長生きしたいものだ、という願いがこめられています。

ところが、今では、落葉かきの必要はまったくなくなりまして。⑦人びとは松林へ行かなくなつたのです。松林では植生の遷移が始まつたのです。それが問題です。

たぶん、人が燃料として樹木を使った大昔から、昭和二十五年（一九五〇）ころまでは、おもに燃料を求める人びとの活動がクロマツの遷移をもちゅうでストップさせていたのです。その活動が松葉かきです。しかし、昭和二十五年ころに、日本では、燃料革命とよばれることが起こりました。生活のための燃料が、薪や木炭から、ガスや電気になつたのです。また、外国から安い材木がどんどん輸入されて、日本の山で育てた樹木からできていた材木は、かえりみられなくなりました。人びとはもう山の樹木や海岸のクロマツ林に興味もなく、おとずれることさえしなくなりました。

自然を守れというかけ声が社会の中で年ごとに大きくなるのと反対に、昔は松葉かきに汗を流した大人たちの心は、むしろ年ごとに自然から遠ざかつていったように思われます。まして子どもは、おとなたちのような経験がないだけに、遠ざかりかたは早いようでした。

E は、五十年の年月をかさねた今では、あちこちで確実にすすんでいます。樹高一五メートルくらいのクロマツ林では、そろそろ激しい生存競争が起こつていようです。このままでは、クロマツ林の多くが広葉樹林に変わること
は明らかです。

（近田文弘 『海岸林が消える?!』 一部改変）

※(文中のことばの意味)

植生 … ある地域に集まって生育している植物の集団。

遷移 … うつりかわり。

翁 … おじいさん。

媪 … おばあさん。

熊手 … 落葉などをかき寄せる道具。

問 1

A D にあてはまることばとして、最もふさわ

しいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そして イ もし ウ しかし エ また

問 2

線①「このクロマツの性質」とありますが、どのような「性質」ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 砂浜や溶岩台地の二カ所でしか育たない性質。

イ 太陽の光が当たる海岸の砂浜に、人に植えてもらう性質。

ウ 太陽の光が当たり、ほかの木が育ちにくい土地で育つ性質。

エ 樹木が生活できない、太陽の光を受け、水がたっぷりある土地で育つ性質。

問 3

線②「種子にはつばさがついていて」とありますが、その理由として**ふさわしくないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 親の近くでは、発芽したり、苗としても生長したりできないから。

イ 違う土地に行けば、他の植物と争うことをせずに生長できる可能性があるから。

ウ 他の種類の種子とは違う特長があれば、鳥や虫に運んでもらえるから。

エ 種子そのものの力だけでは、生長に適した遠い土地に行くことができないから。

問 4

線③「苗として生まれた子どもを愛情をもって育てる、ということはありません」とありますが、たいていの樹木がこのようにするのはなぜですか。その理由にあたる次の文の X にあてはまる最もふさわしいことを、文中から二十五字以内でぬき出しなさい。

足もとの子どもは、になるから。

問 5

線④「戦争」とありますが、これと同じ意味の表現を文中から漢字四字でぬき出しなさい。

問6 ———線⑤「こうなったら」とありますが、それはどのようなときですか。**ふさわしくないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア クロマツに栄養を与えるキノコがなくなってしまうとき。
- イ 広葉樹が土の水分や空気をうばっていくとき。
- ウ 広葉樹の種子がクロマツ林で生長したとき。
- エ 落葉がつもつてくさり、土がふかふかになるとき。

問7 ———線⑥「くふう」とありますが、具体的には何をすることですか。文中から一語でぬき出しなさい。

問8 ———線⑦「人びとは松林へ行かなくなったのです」とありますが、その原因は何ですか。文中の言葉を使って、十五字以内で答えなさい。

問9 Eにあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間によるブレーキがはずれた植生の遷移
- イ ブレーキがはずれた人間による植生の遷移
- ウ 人間によるブレーキをかけた植生の遷移
- エ ブレーキをかけた人間による植生の遷移

問10 この文章の話題は前半と後半に大きく分けると二つあります。その話題の組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア クロマツと海岸の関係と、人間の自然保護。
- イ クロマツの生態と、クロマツと人の関わり。
- ウ クロマツと広葉樹の関係と、翁と媪の人形にこめられた意味。
- エ クロマツの生存競争と、クロマツの能力。

問11 この文章の内容として、**ふさわしくないもの**を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 広葉樹がクロマツ林の中で生長すると、クロマツにとって不利な条件がそろう。
- イ クロマツは陽樹に分類される樹木なので、日陰では生きることができない。
- ウ クロマツは海岸でしか育つことができないので、他の樹木より育つ場所が少ない。
- エ 広葉樹はクロマツと違い、暗いところでも生長することができる。
- オ クロマツと人間は長い間、ともに支えあって生活している。
- カ 人々の訪れなくなったすべての山や海岸では、広葉樹がクロマツにとって代わる新しい樹木になる。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 姉の家庭教師が来ることになった。私が幼稚園の年長組の頃の話である。家庭教師が来るといっても、受験戦争に向けての特訓とかそういうものではなく、うちの両親は店をやっているせいで子供の勉強をみてやる暇がないから、せめて宿題くらいは誰かにみてもらおうという程度の気軽なノリであった。

姉がみてもらうついでに、近所の姉の友人二、三人もみてもらう事にしたらしい。夕方になると、うちに何人かの子供が集まった。

② 私はワクワクしていた。姉の友人が集まるのもうれしいが、大学生のお兄さんが来るのである。私は若者と遊ぶのが好きな子供だったので、大学生のお兄さんに大きな期待をかけていた。どうか話のわかるイイ奴であってほしい。

まもなく大学生はバイクに乗ってやって来た。バイクに乗っているというだけで、若者らしくて好感がもてる。私は二階の窓から大学生がバイクを止めて降りるのを見ていた。そしてヘルメットをはずした直後に「おーい」と呼んで手を振ってみた。大学生は少し驚いた様子でこちらを見上げ、親しみやすい笑顔と共に手を振り返してくれた。

すぐに若者はやってきた。うちの母も一緒にやってきて、「宇野先生、よろしくお願ひします」と言っただけで去っていった。若者は宇野という名字のようだ。姉達はそれぞれ簡単に自己紹介をし、早速宿題にとりかかった。

私はもうすっかり宇野先生になついていた。わりあい人見知りをする質だったので、宇野先生に対しては全く平気であった。③ 幼いながらもウマが合うと感じたのである。初めて会ったその日から、私は宇野先生にいろいろな話をした。幼稚園の子供の話など面白いわけがないと思うが、宇野先生は真剣にき

てくれたし、質問にも答えてくれた。私を子供扱いする気配はなく、ちゃんと対等に接してくれているのも大変気に入った。

それからというもの、私は宇野先生が来ると必ず姉達と一緒に参加し、ああだこうだと話をしたり、なぞなぞを出してくれとせがんだり、趣味の切手を見せて自慢したり、ことごとく④ 皆の勉強の邪魔をした。

もちろん、母からは邪魔をしてはいけないと再三にわたり注意されていたが知ったこっちゃなかった。姉も「あんた、あっちに行きなよ」といまいましそうに追い払おうとしていたが無駄であった。宇野先生は私の味方だったのである。母や姉が私を叱っても、宇野先生は「いいですよ、ももちゃんも一緒にいってもかまいませんよ」と言ってくれたのである。よくぞそんなことを言ってくれたものだ。私など、別に子供嫌いなわけではないがとりたてて子供好きというほうでもない。「子供普通」とでもいおうか。どちらかといえば大人のほうがよっぽど好きだ。相手にするなら大人に限る。だから、もしも自分が宇野先生の立場だったら、幼稚園の子供がまとわりついてきたらうるさいと思うし、親が「邪魔しちやダメだよ、こっちに来なさい」と連れてゆこうとしていたら幸いに黙っている。決して「ここにいてもかまいません」とは言わない。かといって、「そうですね、さっさと連れて行って下さい」とハッキリ言うのではなく、黙っているという手段をとるであろうと思われるところが私の卑怯な一面である。そのように、⑤ 私は卑怯なのだ。でもそれを隠さずに、こうやって書いているのだから許してほしい。

宇野先生は、私のために自己流のパズルや迷路などを作ってきてくれた。みんなが勉強して静かにしていなければならぬあいだ、私にはそれを与えて静かに遊ばせたのである。宇野先生の作ってくれたパズルや迷路はとても面白く、私は夢中で静

かに遊んだ。⑥ そんなことをしてくれる大人は今まで見たことがなかった。親せきのお兄さんやお姉さんでさえなかなかそこまでつきあってくれない。逆に言えば、どうして宇野先生はあんなに私をかわいがってくれたのだろう。私の趣味の切手集めにも宇野先生は協力してくれた。「スタンプの押しあてある切手でもかまわなければ、きれいなや珍しいのがいっぱいあるよ」と言っていて、ある日封筒いっぱい使用済みの記念切手を持ってきた。私は⑩ 目をみはり、「なんでこんなにいっぱいあるの？」と尋ねたところ、宇野先生は友人達に頼んで少しずつ集めてくれたらしい。そんな手間をかけてまで、家庭教師先の幼稚園の女の子のために⑪ 骨を折る人がこの世に何人いるであろうか。ひとつひとつの思い出をたどるたびに、宇野先生の私に対するやさしさが実に誠意のこもったものであることに改めて気づき胸が熱くなる。

宇野先生は、きっと全ての人に対してそういう接し方をする人だったに違いない。⑦ すばらしいことである。当時、宇野先生は二十二歳位だったと思うが、私が二十二歳の頃と比べてかなり差がある。三十一歳になった今と比べても宇野先生の立派さには到底かなわない。

一年間ばかり、宇野先生はうちに来てくれていたが、大学を卒業することになり下宿先から実家に帰る都合で家庭教師を辞める日がやってきた。その日もいつも通り姉の友人達がうちに集まり、宿題をやり、母の作った夕飯をみんなで食べて過ごした。

幼い私は、その日限りで宇野先生に会えなくなるという実感が湧かず、寂しさも悲しさもなくただそこにいた。母がやってきて、私にキチンとあいさつをするように言ったが、⑧ 私はいつも通りに「またね」と言っていて笑って手を振った。宇野先生も「またね」といって手を振っていた。

私は外へ出て、宇野先生のバイクが遠ざかってゆくのを見ていた。見えなくなるまで見ていた。それからもう二十五年も過ぎてしまった。宇野先生が、今どこで何をしているのかも私にはわからない。私のことを憶えていてくれるかどうかもわからない。⑨ 死別に近い別れだったのである。なのに当時はそれに気づかず、「またね」と言っていて笑った自分の幼さが哀しい。そして⑩ 宇野先生の「またね」という言葉を信じていたことも。

（さくらももこ 『あのころ』 一部改変）

問1 線①～③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① いまいましそうに

ア まじめそうに

イ 面倒くさそうに

ウ どうでもよさそうに

エ 腹立たしそうに

② 目をみはり

ア 興味を持って

イ 満足して

ウ 驚いて

エ 喜んで

© 骨を折る

- ア 苦勞する
- イ ケガをする
- ウ いたい目に合う
- エ ていねいに接する

問2 文中から次の段落がぬけています。どの段落のあとにあてはめるのがふさわしいですか。直前の文の終わりの五字をぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

良さそうな若者である。私は窓を閉めながらうれしくなった。そして、姉達に混じって、大学生が部屋に来るのを待った。

問3

——線①「姉の家庭教師が来ることになった」とありますが、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 受験戦争に向けての準備を始めるから。
- イ 両親が店をやっている気軽なノリから。
- ウ 親に子どもの勉強を見る暇がないから。
- エ 何人かの姉の友人たちに頼まれたから。

問4

——線②「私はワクワクしていた」とありますが、どのような気持ちの表れですか。文中から漢字二字でぬき出しなさい。

問5

——線③「幼いながらもウマが合うと感じたのである」とありますが、なぜですか。その理由を「くから」につながるように文中から三十字以内でぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

問6

——線④「皆みな」とありますが、だれのことを指しますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 姉達
- イ 私と両親
- ウ 姉の友人達
- エ 私の友人達

問7

——線⑤「私は卑怯なのだ」とありますが、どのようなところを「私」はそうのように思っていますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が悪くてもそれをごまかすことができるところ。
- イ 自分の楽しみのために大人をうまく利用するところ。
- ウ 相手にわからないように上手にうそをつけるところ。
- エ 自分の意見を言わずに相手にまかせてしまうところ。

問 8 ——— 線⑥ 「そんなこと」とありますが、どのようなことですか。文中の言葉を使って二十字程度で答えなさい。

問 9 ——— 線⑦ 「すばらしいことである」とありますが、どのようなことが「すばらしい」のですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 幼稚園児に対しては、親切にしようと普段から心がけて接していること。

イ 全ての人に対しては、公平にしようと幼い頃から考えて接していること。

ウ 教え子に対しては、家庭教師としてできる限りのやさしさで接していること。

エ 出会った人に対しては、いつも真心をこめたやさしさで接していること。

問 10 ——— 線⑧ 「私はいつも通りに『またね』と言って笑って手を振った」とありますが、なぜですか。その理由となる一文を文中からぬき出し、はじめの五字で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問 11 ——— 線⑨ 「死別に近い別れだったのである」とありますが、どのような「別れ」だったのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア もう二度と会えない別れ。

イ 目の前から突然消えてしまう別れ。

ウ 辛さや悲しさを後々まで引きずる別れ。

エ 元気にしていたものが徐々に力を無くしていく別れ。

問 12 ——— 線⑩ 「宇野先生の『またね』という言葉」とありますが、「宇野先生」が「またね」と言ったのはなぜだと考えられますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア もう会えなくなることを告げて、幼い子どもの心を悲しませたくはないと思ったから。

イ 私が「またね」と言ったことに対して、何か返事を返さなくてはいけないと思ったから。

ウ 別れのあいさつをするときに涙が出そうになったが、周りにたくさんの人がいて恥ずかしく思ったから。

エ 今度会ったときには、バズルや迷路を作るだけではなく、勉強を教えてあげようと思ったから。

三 次の慣用句の（ ）にあてはまるものともふさわしいか
らだの部分を表す漢字を一字答えなさい。

- ① () が棒になる (ひどくつかれる)
- ② () を長くする (待ちこがれる)
- ③ () につく (どうも気に入らない)
- ④ () が立つ (しやくにさわる)
- ⑤ () を広げる (規模を大きくする)

四 次の――線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答
えなさい。

- ① 山の稜線りょうせんのソクリヨウを行う。
- ② 水泳選手のバランスの良いキンニク。
- ③ 失敗をしたが、彼にスクわれた。
- ④ 日米シユノウ会談かいだん。
- ⑤ 気温に適したフクソウ。
- ⑥ 手ぶくろを編む。
- ⑦ 車窓の風景をながめる。
- ⑧ 夜おそくなったので、家路を急ぐ。
- ⑨ 口で言うのは易しい。
- ⑩ 雑木林でカブトムシをつかまえる。

これで問題は終わりです。